

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
小学部	(1)	児童一人一人の個性や特性、教育的ニーズを把握し、個の成長を引き出す。	個々の実態に応じた目標や手だてを検討し、学年、学部間で系統的な支援を行う。また、医療や福祉、関係機関と連携し、必要に応じてすみやかに検討を行う。	1-② 2-①② 3-① 4-⑤	B	○個々について、保護者・関係機関と連携し支援の方向性を決定、対応をすることができた。 ●オンライン会議を中心に行うにあたり、検討結果や対応を学部全体で共通理解し、検討・支援にあたる体制作り。 ◇学部全体で支援にあたる意識を高め、必要な会議、支援を迅速に行う。 ○児童の実態に応じたアプリや支援機器を選択し、自己表現のツールとして活用できた。 ●重度の児童に対するICT機器活用の充実。職員の知識・スキルの向上。 ◇自己表現の手段としてのICT機器活用を実践し学部で情報共有を図る。
			学校生活の中で、自分の役割を果たすことができるように支援機器等を活用する。自分のできることを増やしなが、意欲や達成感を高められるようにする。	1-②③ 2-④	A	
	(2)	一人一人が自分らしさを発揮し、豊かな心を育む教育活動を推進する。	経験を増やしたり、感性を引き出したりできるように、体験的な活動を計画的に取り入れ、興味関心の幅が広がるよう支援する。	1-②③ 2-①④	B	○学部行事や異学年との活動等、集団での取り組みを実施し、友達や自然・物との関わりを感じる活動ができた。 ●継続した感染対策の意識。 ◇コロナ禍前に行っていた活動や実施形態の見直し。 ○50周年記念事業の活動をとおして、他者との関わりやお互いの個性の理解を図ることができた。 ●互いを知る活動の計画と、活動時間、回数の検討。 ◇継続した交流活動の実施。学校間で交流の目的や実施意義の共有。
			各種交流活動や合同学習、50周年の活動を通して、お互いを尊重し合う気持ちを育てる。	1-⑤	B	
	(3)	児童の健康状態や安全に配慮した生活・学習環境の整備に努める。	児童一人一人の心身の状態について把握に努め、最新の情報へ更新していく。また、保護者、関係機関と情報を共有しながら安心・安全な生活環境を整える。	5-①④	B	○児童の心身の状況に応じて、保護者との相談、医療相談、校内での話し合いを行うことができた。学校全体で児童の配慮事項を共通理解したり、今後の対応を検討、共通理解を図れた。 ○各学年で、緊急対応想定訓練の積極的な実施。反省をもとにした、個々に対する初期対応の検討が行えた。修繕が必要な箇所の迅速な報告、修理依頼が行えた。 ●様々な状況を想定し、シミュレーションを行っておく。 ◇児童の体調について、新しい情報を更新しながら定期的に対応を検討、共通理解する。
			緊急時を想定し、対応の手順を常にイメージしておく。また、教室や廊下の整理・整頓に努め、安全確認を定期的に行い、危険箇所の早期発見や修繕をしていく。	5-①④	B	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
<p>中学部</p>	(1)	ア	学校生活全般で、あいさつや返事、時間などの社会生活の基本的ルールやマナーを学べる機会を多く設定することで、他者への意識を高められるようにする。	1-①	A	<p>○登下校時には、教師や学部を越えて挨拶をしたり、呼びかけられた方に向けて応えたりすることができた。</p> <p>○学年ごとに遠足や修学旅行の事前学習に取り組み、期待感を持って体験学習が行えた。交流活動では市内の中学生とアート活動を共に行うことで学び合いが深まった。</p> <p>●生徒の実態に応じた体験学習の場の設定。</p> <p>◇安全な活動内容を確保するための遠足や修学旅行先の選定を検討していく。</p>	
		イ	社会参加に向けた体験的な学習や遠足、修学旅行、交流活動等に取り組み、その中で対話的な学習を通して、友だちや周りにいる人との関係を深めていけるようにする。	1-③⑤	B		
	(2)	ア	「支援マップ」や個別面談、日々の連絡帳、日々の生徒の学習の様子などから、生徒や保護者の教育的ニーズを把握し、専門家等の助言を踏まえて個別の指導計画を作成し、実践することで学習活動の充実を図る。	2-①② 3-④	B	<p>○日々の生徒の健康状態を把握し、個々の学習の様子を連絡帳や面談等で保護者と共有することで、個々のニーズに応じた学習活動を展開することができた。</p> <p>○必要に応じてPT,OT,ST等からの助言を受け、個々の支援の仕方を工夫することができた。</p> <p>○学習グループごとに、ICT等の適切な活用を進め、生徒の実態に応じた支援の仕方を工夫し、疑似体験や意思の表出等を促す学習活動を進めることができた。</p> <p>●授業づくりにおける個に応じた効果的なICT等の活用。</p> <p>◇授業づくりにおけるICT等の効果的な活用について教員の更なる研修が必要である。</p>	
		イ	学年会やグループ会等で、個々の学習目標及び指導内容、支援方法を明確にし、共通理解のもと取り組んでいく。 また、個々の実態や学習内容に応じた言語活動や疑似体験等、ICTの適切な活用を進め、学習活動の充実を図っていく。	2-②③④	B		
	(3)	生徒の健康状態を把握し、安全・安心な学習環境を整え、健康の維持、体力の向上に努める。	ア	教室やグループ室などの整理・整頓、感染症防止対策を心がけ、安全に活動しやすい学習環境の整備に努める。また、生徒の実態や成長に応じた緊急対応マニュアルの見直しを行い、関係職員間で共通理解を図る。	5-③④	A	<p>○教室やグループ室の清掃、整理整頓を毎日実施し、安全確認をし、学習環境を整えることができた。</p> <p>○各生徒の成長に伴う体調面を把握し、必要に応じて医療相談等を実施し、緊急対応マニュアルの見直しや医療的ケアの申請等、保護者とともに関係職員間で共通理解を図ることができた。</p> <p>◇思春期に伴う体調面の変化等を見逃さず、安全に学校生活を送れるように学習環境を整えながら、主体的な学びができるような学習活動を継続していく。</p>
			イ	生徒の実態や成長に応じて学習内容の変更など、保護者や外部専門家、主治医、看護職員と連携を図りながら、個に応じた自立活動の計画を立て、健康の維持と体力の向上を図る。	2-③ 4-①⑤	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
高等部	(1)	ア	個別面談や進路相談を行い、生徒一人一人の教育的ニーズや課題を把握する。卒業後の自立と社会参加へ向けて、個別の教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し、進路体験実習の事前相談や移行支援相談での活用を図る。	1-②④	B	<p>○個別面談で、また適宜必要に応じて進路相談を行ってきた。生徒や保護者の要望や不安に感じていることを受け止め、進路指導主事を中心に個に応じた進路支援に努めた。</p> <p>○I 課程進学コースの生徒を対象にオンラインにて夏季講習や外部模試を実施した。</p> <p>○校外での作業作品販売やオンライン注文、就労につながる臨時の実習を行った。</p> <p>●I 課程進学コースの3年間の進路の進め方について検討する時間を十分に取れなかった。</p> <p>◇I 課程就労コースが進路体験学習を通して社会スキルを身に付けたり進路選択していくように、進学コースも進学先の調べ学習やオープンスクール、模試等、進路先決定の流れが分かるような計画案を作成したい。</p>	
		イ	一人一人の生徒の実態を十分に把握し、それぞれの自立に向けた支援方法について検討し、共通理解を図る。また、体験的な学習や交流学习を適宜設定し、進路や卒業後の生活を考える機会とする。	1-①②③	B		
	(2)	ア	生徒の実態やニーズを踏まえながら、各教科や学校設定科目、合わせた指導の学習目標や指導内容を見直し、次年度に向けて教育課程の改善を図る。	2-①③	A	<p>○生徒の実態やニーズを踏まえ、教育課程の検討を行った。I 課程では進学に有利な教科選択ができるように、II 課程では生活単元学習の内容を整理し教科学習を増やし、III 課程では自立活動の一部を美術、音楽、体育の教科学習に改善した。</p> <p>◇作業学習についても職業科としての扱いができるかを検討していく。</p> <p>○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、生徒の指導内容や支援方法について学年会やグループ会で相談・検討してきた。ICT機器や教材・教具の活用が広がっている。</p> <p>●ICT機器の活用は個人の力量任せになっている。</p> <p>◇生徒個人のタブレット端末やノートパソコン所有率も高まってきたので、その活用法についても情報交換を進めたい。</p>	
		イ	個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、学年会、学習グループ会を通して指導内容や支援方法について検討する。また、校内エキスパートと連携し、ICT機器の活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-②④ 4-②	B		
	(3)	健康や安全に配慮した生活環境の整備を行い、安心・安全な学校づくりに努める。	ア	保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図り、一人一人の生徒の実態を把握して支援方法について共通理解を図る。また、整理整頓、清掃や教材教具の点検・消毒を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	4-①② 5-③	B	<p>○食形態や新しい装具や車いすの取り扱い、遠足や修学旅行の支援等、生徒の健康と安全に関することについて、連絡帳や電話、送迎等で保護者と共通理解を図りながら進めてきた。</p> <p>○放課後の清掃や教材教具の点検や消毒を実施した。</p> <p>●教材・教具の整理整頓が必要なところがあった。</p> <p>○どの学年も生徒の観察を十分に行い、顔色等の小さな変化にも気づき、その気づきを職員同士で共有し、すぐに対策を講じることができた。</p> <p>○寄宿舎とも生徒の情報を共有することができた。</p> <p>◇いじめと思われる事案は確認されなかったが、いじめはないとは思わずいじめの発見を見逃すことのないようにしていきたい。</p> <p>◇引き続き教室や廊下、教材室の整理・整頓に努めたい。</p>
			イ	毎日の観察を十分に行い、生徒に関する小さな気づきを話し合い、寄宿舎や関係機関等とも連携することでいじめの予防に努める。また、他者との良い関係作りの機会となる学習活動の充実を図り、生徒が安心して主体的に学べる環境作りに努める。	4-② 5-①②	A	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
訪問教育	(1) 健康や安全に配慮しながら授業を行い、児童生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	ア 体温、酸素飽和度、身体の様子等を確認・観察し、訪問時の体調を的確に把握する。毎日の健康観察の様子を記録し、訪問教育担当者会で共通理解を図る。	1-①② 2-①②③	B	B ○訪問時、保護者・事業所職員・連絡帳にて体調を確認することができた。 ●体調不良時だけでなく、授業中の様子の確認やバイタルチェックのタイミング等の共通理解を図る必要がある。 ◇臨時にも担当者会を行い、共通理解を図る。
		イ その日の体調に応じて授業を展開し、緊急時・災害時に備えた学習活動を行う。また、必要に応じて月案を作成する。	1-①② 2-①② 4-①② 5-④	A	
	(2) 児童生徒一人一人の実態把握に努め、個に応じた指導のあり方を工夫するとともに日々の学習の充実を図る。	ア 他校との情報交換や研修会等に参加し、指導内容や教材教具、授業の組み立て方法等について研修を深め、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。また、写真・動画や複数訪問等を実施し、授業内容の様子や自宅・事業所の学習環境等を見合う機会をもち、情報を共有して、授業改善に努める。	2-①②③ 3-③④	B	B ○他校との情報交換会をオンラインで行うことができた。 ○教材教具の情報交換や作製をし、授業に活かすことができた。また、写真や動画を視聴し合うことで、児童生徒の実態把握と授業改善につなげることができた。 ●授業の組み立て方・指導内容についての研修機会を定期的に設ける必要がある。 ◇録画による相互参観を継続し、授業改善に努める。
		イ 保護者・事業所との連携を図りながら、個々の教育的ニーズを把握し、一人一人の可能性を最大限に伸ばす授業を実践する。また、オンライン・視線入力等のICT機器の有効な活用による学習活動の充実に努める。	2-①②③ ④ 3-③	A	
	(3) 訪問教育生同士や所属学部学年との連携を図り、共通理解のもとでスクーリングや映像での交流を行い、友だちや集団を意識できるよう努める。	ア 学部会等で訪問教育生の実態や近況報告・連絡・相談をしたり、通学児童生徒との交流の機会を計画したりして、理解を深める。	1-①② 2-① 3-①③	A	B ○学部会で時間を設け、児童生徒の実態や授業の様子を紹介することができた。学習の様子を作成して掲示し、通学児童生徒や所属学部学年と交流を深めることができた。 ○通信(おとずれ)やホームページ(しもとく日記)で、日ごろの学習の様子を紹介を継続して行うことができた。
		イ スクーリングの参加や交流については、当日だけでなくお互いがかかわりをもてるような内容にするための十分な打ち合わせを行う。また、児童生徒の所属学年と密に情報共有を行い、ICTの適切な活用を図る。	1-①②③ 2-②③④ 3-①	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
1年	(1)	ア	家庭との連携を密に取りながら、児童の健康観察・健康管理に努め、教員間で情報を共有する。必要に応じて関係機関との連携を図り、より一人一人の実態に合わせた支援に努める。	1-①②③ 4-⑤	B	○保護者の気持ちに寄り添いながら、児童の障害や疾病の受容ができるようにすすめられた。 ○連絡帳や保護者立ち合いでの朝の健康観察を通して家庭との連携が図れた。 ○スペースの確保ができるよう備品の配置を工夫できた。 ○Ⅲ課程では、実態に応じて繰り返して学習する授業を多く取り入れるようにしてきた。児童が活動に慣れてくることで、身体の動きや表情などに変化が見られるようになった。 ●連絡ノートの活用をしてもよかった。 ◇専門機関との連携をしっかりと取れるように、様々なツールを活用していくようにする。	
		イ	児童が安全、健康に過ごせるように教室環境を整え、安全面に配慮しながら、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	5-①	B		
		ウ	教員間での共通理解のもと、授業の流れの一元化や活動の終始の明確化により、見通しがもちやすい日課の設定と、長期間の継続した取り組みを行う。	1-①② 2-③	B		
	(2)	ア	複数の教員による日常の観察記録、授業評価をもとに情報交換を行い、多面的な実態把握、授業の改善に努める。	2-①②③ 4-⑤	B		○教員間で毎日情報交換をしたことで、実態把握ができた。 ○児童の担当を1週間ごとにローテーションしたことで、違う視点での実態把握ができた。 ○ICTに限らず、アナログでの個に応じた教材教具を作成し使用することで、授業充実を図ることができた。 ●Ⅱ課程が教師との1対1単独授業(特に国語、算数)になることが多くなってしまった。2年生と一緒に学習できる単元があってもよかった。 ◇隣接学年と連携して合同授業の計画立てていく。
		イ	障害特性に合わせ、個に応じた教材・教具・ICT機器を使った授業の工夫や学習内容及び学習形態の整備を行い、授業内容の充実を図る。	2-①②③ ④	B		
	(3)	ア	人や物にかかわる体験を取り入れ、楽しみながら取り組むなかで、正しい挨拶や言葉遣いなど、将来の社会生活につなげることができるような支援に努める。	4-①②③	B		○体験的な学習を取り入れながら将来へつなぐことができるような指導をしてきた。正しい言葉遣いを心掛け、その都度言葉をかけて、児童自ら気を付けられるよう支援をしてきた。自ら意識した言葉遣いができるようになってきた。 ●Ⅲ課程児童のコミュニケーション力がうまく引き出せなかった。 ◇重度の児童へのコミュニケーション指導について、取り組み方の工夫が必要。

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
2年	(1)	ア	登校時に検温等の健康観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	1-①	B	○登校時の健康観察や、保護者からの聞き取りや連絡帳などで情報を共有しながら安全に学校生活が送れる環境づくりに取り組んだ。 ●医療機関からの情報は保護者を通して聞いていた。今後詳しい情報が必要な場合は医療相談や連絡ノートが必要である。 ◇児童の身体の様子や状態について、保護者を通して医療機関に確認しながら行った。学校における支援方法など、細かい部分についての確認については、保護者の協力を得ながら、医療相談または連絡ノートなど検討していく。	
		イ	保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-① 2-① 4-⑤	B		B
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように、室温や湿度、安全面に配慮するなどの教室環境を整え、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②③	B		
	(2)	ア	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを有効的に活用し教育活動に取り組む。	1-② 2-①②④ 4-①②④	A	○授業では、児童それぞれの目標を意識しながら共通理解のもと支援を行うことができた。 ○ICTを取り入れることで、児童の学習意欲を高めたり、楽しみながら繰り返し学習することができた。また、タブレットのアプリケーションを使って自分の意見や思いを伝えたりする姿も見られ、主体的に授業に参加することができた。	
		イ	学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	2-①②③	A		A
	(3)	ア	あいさつや呼名等、身近な人(友だちや教師)とのかかわりの場面を多く設定する。また、人とのかかわりを深められるように異学年との交流場面を設ける。	5-①②	B	○異学年交流では、他学年の児童と一緒に活動し、かかわりを深めることができた。 ○タブレットをコミュニケーションツールとして使うことで、身近な友達や教師を呼び、挨拶をするなど、積極的にコミュニケーションをとる姿が見られるようになってきた。 ●いろいろな場面におけるルールやマナーについて学ぶ必要がある。 ◇集団生活におけるルールやマナーについて、その都度説明し継続した取り組みが必要。	
		イ	人とのかかわりの基礎を養い、集団生活においてのルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	2-① 5-①②	B		B

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
3年	(1)	ア	複数の教員による観察記録や授業評価を行い、多面的な実態把握をする。学年会やグループ会で情報交換を行う。	2-①②③④	B	○学年会やグループ会、朝の打ち合わせの時に児童ごとに共通理解を図り、支援にあたることができた。 ○固定せずに児童と関わることで、多面的に児童の様子を見ることができ、評価につなげることができた。 ○ICT機器を有効に活した授業展開やアプリを使用して、個に応じた学習に取り組むことができた。 ●さらに有効な視覚的教材や支援方法の工夫 ◇授業形態の工夫とさらにICTを有効活用した学習への取り組み
		イ	障害特性に合わせ、個に応じた教材・教具・ICT機器を使った授業の工夫や学習内容及び学習形態の整備を行い、授業内容の充実を図る。	2-①②④	B	
	(2)	ア	家庭と連携を図りながら、児童の健康観察・健康管理に努め、教員間で情報を共有する。必要に応じて関係機関との連携を図り、一人一人の実態に合わせた支援に努める。	5-①③④	B	○毎日の連絡帳やメール連絡網で現況を知ることができた。また、必要に応じて電話で連絡を取り合い状況を把握することができた。また、専門家派遣事業でのセラピストの活用をして、支援の充実を図ることができた。 ●補助具等の工夫をし主体的活動を増やす。 ◇課題の精査と継続的な取り組みをしていく。
		イ	児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する	5-①③④	B	
	(3)	ア	人や物にかかわる体験を充実させ、かかわりを楽しみながら取り組むことができるような場面の設定や授業づくりを、積極的に行う。社会参加を促す体験的な学習に参加する。気持ちを受け止めながら状況に応じた支援、指導をする。	1-①②③⑤	B	B ○学校生活全般でかかわりを密にとりくむことができた。また、交流や文化祭の模擬店では同学年の友だちや外部の方たちと楽しくかかわることができた。 ●かかわるための基礎力を育てる支援の工夫 ◇コミュニケーションツールの工夫

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
4年	(1)	一人一人の実態や障害特性等を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	ア 個別の教育支援計画、指導計画に基づき、児童の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援を実践する。個に応じたICT機器の活用や教材教具の工夫を行う。	1-②③ 2-①②③ ④	B	○個に応じたICT機器の活用ができた。(タップすると音声が出るアプリを使って当番の挨拶をする、ピアノ伴奏を録音できるアプリを使って児童が曲を再生する等) ○外部専門家相談で児童の実態や実態に即した支援方法などを知り、共通理解を図ることができた。 ○授業略案に児童の記録を記入し、児童の様子を教員間で情報交換することで、より良い支援を考えていくことができた。 ○児童の体調記録を入力するフォームを作成し、学年職員間で情報共有する取り組みを開始することができた。 ●児童がより成長、活躍できるための有効なICT活用について検討していけると良い。 ◇児童の様子や体調記録などを教員間で情報交換し、より良い支援方法、共有方法を考えていく。
		イ 外部専門家や連絡帳、連絡ノート等の活用を通して、保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。	4-①②⑤	B		
		ウ 学年会で児童の学習の経過や成果について情報交換を行い、支援方法を検討したり、共通理解を図ったりして、学年全体で一貫した支援ができるようにする。	1-①②③ 2-①②	B		
	(2)	友だちや教師等、集団活動の中で、自分らしさを発揮しながら人とかかわりを大切にし、一人一人の実態に応じたコミュニケーション力の基礎を培う。	ア 身近な人を意識できるように、朝の会や学年レクリエーション等で友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。気持ちや要求を自ら表現したり、伝えたりできるよう、一人一人の実態に応じた教材教具や支援の方法の工夫をする。	1-①③ 2-①②③ ④	B	○朝の会、帰りの会を学年全体で行ったり、休み時間に友だちと一緒に文化祭のダンスなどをしたりして過ごし、周りの人とかかわる場面を多く設定できた。 ○友達と挨拶を交わしたり、レクリエーションをしたりして一緒に過ごす中で、友達への意識が向上した。 ○なかよしタイムでは、2年生と2回の交流を行い、異学年で親交を深めることができた。 ●コミュニケーション手段としてのICT機器の活用を考えていけると良い。 ◇感染状況の様子をみて、安全を第一に考えて検討を重ねて、活動の計画実施するようにする。
			イ なかよしタイムや他学年とのグループ学習、50周年行事等、学年以外の人と交流を通して、集団を意識して活動できるよう計画、実施していく。	1-③⑤	B	
	(3)	健康で安全な学校生活を送ることができるように、保護者や関係機関との連携を図る。	ア 登校時に連絡帳や保護者からの聞き取り、児童の様子等から心身の状態を確認する。体調や生活上の変化については複数の教員で健康観察を行い、保護者との連携を図る。	5-①②③	B	○体調に不安がある児童の健康観察を複数の教員で対応することができた。 ○学年会後に毎月1回程度、「あっぱくん」を使用した心臓マッサージの練習を重ねることができた。(30回の圧迫で交代する練習) ●教室の室温調整や加湿については、教室環境上、きめ細やかな調整が難しく、加湿器やエアコンを使用しても、十分な環境調整をすることは難しかった。 ◇乾燥により体調に影響のある児童については、個々に吸入、保湿をするなどして対応していく。
イ 児童が安全、健康に過ごせるように、室温や湿度等の教室環境を整えたり、定期的に職員間で緊急対応を想定した演習を行ったりする。			4-④ 5-③④	C		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
5年	(1)	ア	日常生活の中で身近な人とのやりとりを重ね、挨拶などを習慣化していけるようにする。また、児童生徒会のマナーアップ運動などを活用しながら自ら積極的に他者とのかかわる場を設定していく。	1-① 2-④ 4-③	A	○日常生活の中で児童がわかりやすい言葉でのやり取りを行うことで、言葉や表情の変化、手を伸ばすなど児童からの発信が増えた。 ○児童生徒会や委員会の際に、他学部・他学年の児童生徒や教師と意見を交換する機会をもつことができた。 ●児童の言葉の聞き取りにくさなどに対してどのように対応していくかが難しい。 ◇教師側のなるべく聞き取ろうとする姿勢を継続していくとともに、児童に対しても「もう少しだけ大きい声で話してくれると聞きやすいかな」など提案していく。	
		イ	お互いに伝わりやすく、気持ちよく行けるコミュニケーション方法について共に考え、適切でない場面があればどのようにすればよかったのかを助言していく。	1-②③ 2-①④⑤	A		
	(2)	ア	保護者に学校の様子を伝えるときには、必要に応じて写真や動画などを活用しながら、わかりやすい説明を心がける。 体調面や支援方法については、保護者や関係機関との連携を密にし、適切な支援が行えるようにする。	1-② 2-①②③ 4-①②④	B	○個別面談の際には学校での様子や将来的な目標などと関連させながら目標設定の理由を説明することで、保護者の理解を得ることができた。 ○それぞれの児童に合ったアプリを学習活動に活用することができた。 ●保護者への説明の際に写真や動画などの提示が少なかった。 ◇面談に限らず必要に応じて写真や動画などを提示していく。	
		イ	ICT機器を活用しながら児童一人一人にとって取り組みやすい学習環境を整える。	1-② 2-①②③④	A		
	(3)	健康で安全な学校生活を送れることができるよう、日々の健康状態の把握と、生活、学習環境の整備に努める。	ア	連絡帳や保護者からの聞き取り、児童の様子等から体調を確認する。体調や生活上の変化については複数の教員で健康観察を行い、保護者と連携を図り、安全安心な学校生活を送れるようにする。	5-③	A	○連絡帳だけでなく登下校時などに保護者と話す機会をもつことで、児童の様子について詳細に確認することができた。また、必要な情報については教員間で伝達し合うことで共通理解を図ることができた。 ●車いすの台数が多く、移乗や児童の移動の際に動線が確保しにくいことがあった。 ◇児童や教師の動きを想定して物品の置き場を考えるようにする。
			イ	安全面に配慮した教室環境を整え、定期的に教材教具の点検や教室の室温、湿度の調整を行い生活環境の整備に努める。	5-①	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
6年	(1)	ア	会議やClassroomで情報交換を効率的に行いながら、複数の教員による情報収集を行う。また、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた支援を実施する。学習の様子はJambordを活用して教員間の共有を図る。	1-② 2-①②④ 4-② 5-⑤	B	○学年のClassroomやJambordのアプリを効率よく活用することで、児童の様子や学習の様子を速やかに教員間で共有し、児童の支援や授業づくりに活かすことができた。 ●視線入力により児童の見え方や実態を的確に把握することができたが、ICTを計画的、かつより効果的に活用すること。 ◇教員間で視線入力を中心にICTについて情報交換しながら知識を高め、年間指導計画等にも設定していく。	
		イ	個々のねらいを明確にし、児童の実態や使用する場面に応じて効果的なアプリを選択・活用する。また、必要に応じて視線入力を実践し、主体的に活動する場を広げていく。	1-①② 2-①	B		
	(2)	ア	自分の気持ちや要求を身近な人に伝えることができるよう、個に応じた丁寧なかかわり(言葉かけ、写真カード、絵カード、タブレット端末の活用)を行う。また、図書室を活用する機会を積極的に設ける。	1-①②③ 2-①③④	B	○タブレット端末を活用することで、発語が難しい児童も日常生活や、学習活動の中で主体的なコミュニケーションを図ることができた。 ○なかよしタイムで異学年交流を2回行い、協力して活動する場面を設けたことで、上級生としての気持ちやそれに応じた行動を促すことができた。 ●一部の児童は積極的に読書活動を行うことができたが、学年全体で様々な本に親しむ場を確保すること。 ◇図書室を定期的に利用する時間を計画的に設ける。	
		イ	共同学習や異学年との交流では、集団を意識し、充実したかかわりをもてるよう計画的に準備し、実施する。また、事前学習や事後学習を丁寧に行うことで、児童の達成感や充実感につなげていく。	1-⑤	B		
	(3)	保護者や関係機関と連携を図り、健康や安全に配慮しながら安心して学校生活を送ることができるようにする。	ア	登校時に保護者からの聞き取りや連絡帳で児童の体調を確認する。また、検温や酸素飽和度、心拍数の測定、表情や発作の様子を観察・記録し、医療的ケアを行う児童についてはマニュアルに沿ってケアの実施を安全に行う。外部専門機関も継続して活用していく。	5-①③④	B	○児童の体調や様子を細やかに観察し、気付いたことは複数の教員で確認しながら情報を共有したり、保護者と連絡帳などで丁寧にやりとりをしたりすることで、適切な児童の把握に努めることができた。PT・OT・ST相談でのアドバイスも有効に活かすことができた。 ●ヒヤリハットやアクシデント報告に至ることや持ち物の確認が不十分なことがあり、事故防止や身の回りの確認を徹底すること。 ◇日頃から教室環境の整備や支援の体制の見直しを行い、危険な場面を想定しながら対応の仕方を教員間で確認しておく。
			イ	個別の緊急対応マニュアルを教師間で定期的に確認し、緊急時に備える。マニュアルに変更があったときには速やかに対応する。保健係から発信される情報(ヒヤリハット等)の共有を確実に図るとともに、備品の整理整頓を心がけ、事故防止に努める。	5-①④	C	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
各教科の指導	(1)	ア	体育や自立活動等を通して、継続的に健康の維持・増進に努める。	2-③	B	○自立活動や日常生活の場面では、短時間でもできる動きや自分でできる動きを中心に取り組み、体育では負荷が大きい運動にも取り組むことで、健康の維持、向上を図ることができた。 ●継続して取り組むための十分な時間の確保が難しい。 ◇短時間でできる運動や健康の維持・増進に関する取り組みを増やすことができるとよい。	
		イ	体育や自立活動等において、体力の向上や身近自立のための動きの習得、自分でできる取り組み方についての理解を深める場面を設ける。	1-① 2-③	C		
	I	(2)	ア	児童の実態を的確に把握し、体験的な活動や実態に応じた教材を取り入れた学習の機会を設ける。また、他者とのかかわり方を学べるように、共同学習の機会を設ける。	1-③⑤ 2-①②④	B	○自動車工場のオンライン見学や、県内の肢体不自由特別支援学校との合同学習を行うことで、現地の様子を感じたり他校の児童とかかわったする場を設けることができた。 ○ロイロノートやjamboardなどのアプリで問題の解答や意見のやりとりをすることで、自分の力で問題に取り組んだり、相手の意見を参考にしたりする様子が見られた。 ○ドリルや学習アプリなど、各児童に合わせた方法で既習内容の復習を行うことで、基礎基本の定着を図ることができた。 ●同じ単元を行うときに、児童間の進度に差ができたT2が必要な場面ができていたりすることが度々あった。 ◇実態差がある児童が同じ単元に取り組むことができるようにするためのICT機器の活用、教材の工夫ができるとよい。
			イ	基礎基本の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、ICT機器を利用した学習を設ける。	2-①②④	C	
			ウ	授業記録を適宜付け、定期的に学習の習熟度を確認し、アプリやプリント等を活用しながら既習内容の復習を行う。	2-②④	B	
	II	(1)	ア	児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	2-①②③ ④	C	○コロナが5類になったこともあり、校外学習、買い物、調理等の体験学習を行えるようになった。ICTによる学習もいいが、やはり実際に見て聞いて触って体験する学習からは、児童たちの主体的で対話的な学びを導きやすく、さらに他教科との関連付けも、体験をもとにしやすくなるため、深い学びにつなげることができる。よって今後も体験的な活動を大切にしたいと考える。 ●全体でのグループ会は事務連絡程度になってしまった。 ◇各学年の実態の差が大きいので、各学習グループでの学習内容等についての話し合いに重点を置くということではないか、確認が必要。 ●来年度からは生活単元学習がなくなり、『生活科』としてスタートする。学習内容についての整理や共通理解がまだされていない。 ◇学習内容や目標、系統性について検討し、共通理解する必要がある。
イ			自立活動や他の教科と関連付けたり、定期的にグループ会をもち教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。	2-①②③ ④	C		
(2)	ア	イ	学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とかかわる機会を大切にするとともに、異学年との交流を定期的実施し、学習場面等に応じた具体的な対話方法を学習し、定着を図っていく。	1-①②③	B	○月一回の『合同生活単元学習』において、“人とかかわる力を高める”ことを目標に取り組んだ。大人数でのゲーム等を通したかかわりの中で、十分にその力を高めることができた。 ●来年度からは全学年合同での授業は無しとするのか決まっていない。 ◇上記同様、検討と共通理解が必要。 ○タブレットをコミュニケーションツールとして使用する事例が見られるようになってきた。『伝わる喜び』を感じる児童の姿が多く見られた。	
		イ	サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用することで、児童の実態に応じたあいさつなどの表出方法を工夫し、児童が自ら繰り返し活用できるようにする。	1-①②③ 2-①②③	B		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
Ⅲ	(1)	ア	様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりする。	2-②③④ 4-①②③	B	○実態に応じての個別の課題に取り組む時間を確保し学習を行うことで、積み重ねができて成果が見られた。 ○タブレットのアプリを使用し、コミュニケーションツールとして活用することができた。(自発的なコミュニケーション、朝の会・帰りの会の司会、授業の始めと終わりの挨拶等) ○体験もしくは疑似体験できる活動を多く設定することができた。 ○挨拶を積極的に行ったり友だちとかかわる活動を多く設定したりすることができた。気持ちの表出等があった際には、共感の言葉かけも必ず行うことができた。 ●他学年と関わる機会が限られているため、良い実践が学部内で共有されにくい。 ◇複数学年で行う活動などを通して、職員が学年を越えて情報共有する時間を増やしていく必要がある。
		イ	人とかかわる力を伸ばせるように、様々な人とかかわる機会を多く設定し、気持ちを表した際には、共感するような言葉かけをする。	1-①② 2-③	B	
	(2)	ア	こまめな健康観察と、教師間の情報共有を密にし、日常生活全体で適切な対応を行う。	3-①③④	B	○電話、スクールメール、連絡帳等で連絡を取りながら、保護者との連携を図ることができた。 ○PT、OT、STやICT関係の専門家の助言を聞きながら、学年の職員や保護者と共有し、支援に活かすことができた。 ●医療機関との連携は、家庭を通して行うため、時間がかかってしまう場合がある。 ◇医療機関との連携は時間に余裕をもったり、連携のシステムのあり方を検討していく。 ◇日々の健康観察を十分に行い、体調の変化に気づくようにするとともに、教員間の情報共有を常に綿密に行っていく必要がある。
		イ	連絡帳や外部専門家の活用を通して、家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	4-①②③ ⑤ 5-①③④ ⑤	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
1年	(1)	ア 集団活動の中で人とのかかわりを大切にし、コミュニケーション能力を高めることができるようにする。	場面に応じた挨拶や返事、言葉遣いを意識し、定着できるよう支援する。	1-① 4-③	B	○登下校時の挨拶や呼名時の返事など、毎日意識して取り組むことができた。 ○生徒の身体全体や表情の些細な変化から、教師が気持ちを代弁することで、相手とのコミュのケーションを図ることができた。 ●生徒同士がかかわる場面を十分にとることが難しかった。 ◇場面に応じた挨拶や返事は、常に意識できるよう継続して指導していく必要がある。 ◇特別活動の時間で、生徒同士がかかわる場面を設定していく。
		イ 教育活動全般を通して生徒同士がかかわる場面を多く設定し、集団や相手を意識した活動の場を設ける。また、生徒の意思表示を教師が相手に伝えることで、スムーズにコミュニケーションをとることができるように支援する。	1-③ 2-①	C		
	(2)	ア 生徒一人ひとりの障害特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や系統的な指導に努める。	保護者と生徒の実態について情報を共有するとともに、複数の教員による情報収集や多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫を行う。	2-①②③ 4-①②	B	○面談や連絡帳の他、必要に応じて電話連絡や直接話をするなどして、保護者と情報を共有することができた。 ○学年会やグループ会では、日常生活の様子をもとに各生徒の課題を取り上げ、教員間で指導方法について検討し、共通理解の下、授業改善を図ることができた。 ●学年内の職員間で、生徒一人ひとりの学習の経過や成長について、共通理解を図る時間を十分に確保することが難しかった。 ◇グループでの授業の様子を、記録をもとに共通理解し、指導の工夫や改善をしていく。
		イ 学習の経過や生徒の変容について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図ると共に、指導実践の工夫や改善に努める。また、実態に応じて、ICTを有効に活用することで、学習活動の充実を図る。	2-①② ③④	C		
	(3)	健康で安全な学校生活を送れるよう環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	ア 教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努める。	5-①③④	B	○教室の清掃、整理整頓を毎日実施し、生徒が活動しやすい学習環境を整えることができた。 ○連絡帳や、送迎時の体調の確認、面談などを通して、体調や生活上の留意点について保護者と共通理解を図ることができた。 ○外部専門家相談を行い、今後の支援方法について助言を頂き、生徒の指導に活かすことができた。 ●健康状態の変化の記録を学年内で共通理解することが難しかった。 ◇体調の変化が分かるよう、日々の様子を簡潔に記録し、学年内で共通理解を図る。
			イ 健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密にする。また外部専門家や連絡ノートの活用を通して、関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容や支援方法の充実を図る。	4-①② ③⑤	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
2年	(1)	ア	場面に応じた挨拶や返事を意識し、定着できるよう支援する。	1-①②	A	○登下校時の挨拶や呼名時の返事など、毎日意識して取り組むことができた。 ○特別活動では、外遊びやボーリングゲーム、風船バレーなどの集団でのゲームを通して、相手とのかかわりの場を設けることで、生徒同士の関係を深めることができた。 ○生徒の些細な身体全体の変化から、教師が気持ちを代弁することで、相手とのコミュのケーションを図ることができた。 ◇今後は、場面に応じた挨拶や返事ができるように個に応じて、ICT機器を活用して行きたい。	
		イ	教育活動全般を通して生徒同士がかかわる場面を多く設定し、集団や相手を意識した活動の場を設ける。 また、生徒の表情や発声、視線、身体の動きなどの意思表示を教師が相手に伝えることで、スムーズにコミュニケーションをとることができるように支援する。	1-①② 2-①②	A		
	(2)	ア	保護者と生徒の実態について情報を共有するとともに、複数の教員による情報収集や多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。	2-①②③ ④ 4-①②④	A	○日々の連絡帳でのやりとりや、個別面談等での聞き取りを通して得た情報を教員間ですぐに共有することができた。また、それらの情報から実態把握を行って、指導に当たることで個に応じた指導へと繋げることができた。 ○学年会やグループ会では、個別の支援計画の他、日常生活の様子をもとに各生徒の課題を取り上げ、教員間で指導方法について検討し、共通理解の下、授業改善を図ることができた。 ○必要に応じて、絵カードやICT機器を使用し、生徒の主体的な活動を導くことができた。 ●各担当グループの実態を把握することしかできなかった。 ◇各グループで実践しているICT機器の活用方法について、学年間でも共有し、研修をする必要がある。	
		イ	学習の経過や生徒の変容について、記録を基に学年会や学習グループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図ると共に、指導実践の工夫や改善に努める。また、実態に応じて、絵カードやタブレット端末などを有効に活用することで、学習活動の充実を図る。	2-①②③ ④	B		
	(3)	生徒が健康で安心・安全な学校生活が送れるように感染症対策を図り、環境を整え、体力や健康の維持に努める。	ア	健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密にし、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	5-③④	A	○日々の連絡帳や、送迎時の体調の確認、面談などを通して、体調や生活上の留意点について保護者と共通理解を図ることができた。 ○外部専門家相談を積極的に行い、PTやOTから指導内容や今後の支援方法について助言を頂き、生徒の指導に活かすことができた。 ●連絡ノートを活用はしていない。 ◇身体の成長に伴い、発作等の変化が見られるようになる時期なので、外部専門家や保護者と確認していく必要がある。
			イ	外部専門家や連絡ノートの活用を通して、保護者や関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容や支援方法の充実を図る。	4-①②③ ④⑤	B	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
3年	(1)	ア	思いやりの心や、社会参加に必要なルールやマナー、コミュニケーション能力を育むために、学校行事や特別活動、学年の教育活動全体を通して個に応じた支援を行う。	1-①③ 2-①	B	○帰りの会で個人目標を1人ずつ反省するようにしたこと、生徒や教師と一緒に、称賛し合うことができた。 ○修学旅行に向けて、茨城県についての事前学習を行い、修学旅行に活かすことができた。 ○進路や福祉サービスについて、保護者からのニーズに応じて必要な情報を提供することができた。 ●保護者に進路の話をする場が個別面談や情報交換会のみになってしまった。 ◇学年会で進路指導に関する研修を行い、保護者に情報提供できるように進路指導の知識を深める必要がある。	
		イ	進路、福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努め、進路について考える機会を設定するとともに、集団活動の中で人とかかわりをもてるよう、多様な経験ができる場や機会への積極的な参加を促し、支援する。	1-④⑤ 3-③⑤ 4-③	B		
	(2)	ア	一人一人の障害の特性や実態を把握し、各自のニーズを踏まえながら、保護者や関係機関との連携を図り、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、それをもとに個に応じた指導・支援を実践していく。	2-①②③ 3-①④	A	○個別の指導計画をもとに、学年、グループ内で課題を共有し学習目標を明確にして、授業実践を行うことができた。 ○スイッチ教材やタブレット端末の活用など、生徒の実態に応じ、個々の目標に適したICT機器を活用することができた。 ●タブレット端末等の利用が拡大してきているが、個に応じたアプリの有効活用について、さらに研修が深まるとよい。 ◇ICT機器の活用について、実際に操作するなどの研修時間の確保が必要である。	
		イ	支援目標や指導・支援内容について、連絡帳や連絡ノートを通して保護者や医療機関と共通理解を図ったり、学年会やグループ会で適切な指導・支援の在り方について連携・確認を取ったりしながら進めていく。	1-② 3-①④ 4-⑤	B		
		ウ	個別の教育支援計画と指導計画に基づいて教員が共通理解を図りながら、日々の授業実践に工夫、改善を加え、目標達成のための支援の充実を図る。(略案、授業研究、教材・教具の工夫、ICTの活用、T・Tの充実)	1-② 2-②③④	B		
	(3)	生徒が健康で安全な楽しい学校生活を送ることができるように環境を整えるとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	ア	連絡帳などを通して生徒の健康状態や体調の変化を把握し、衛生、安全面に配慮した環境調整をしたり、必要に応じて養護教諭、看護職員と連携を図ったりして支援、指導にあたる。	1-① 5-①③	A	○一人ひとりの健康状態や体調の変化について、毎朝、学年職員で確認し、共有することができた。 ○連絡帳の記載事項や毎朝の検温、表情等から生徒の体調を確認し、学習時の姿勢等を配慮することができた。 ○毎日、生徒下校後には、教室の整理整頓、教室や学習室の消毒、清掃を行うことができた。 ●医療機関との連携に関しては、外部専門家活用のみになってしまった。 ◇積極的に連絡ノートを活用していく。
			イ	一人一人の障害の特性や実態を把握し、連絡ノート等を用いて医療機関と連携を図りながら、健康の維持や体力、身体の動きの向上につながる実践を行うとともに、職員間での共通理解を図る。	3-① 4-①⑤	B	
			ウ	教室や学習室、廊下などの環境整備や安全点検に努め、職員間での情報交換を密にしながら、学習・生活環境の維持向上と危険・事故防止のための共通理解を図る。車いす操作技術や危険予測・危険回避に関する知識や技術に対する支援・指導を行う。	5-①③④	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	(1)	ア	学校生活全般で、あいさつや返事などの社会生活の基本的なマナーやルールを意識させるとともに、周囲の人の力が必要な場合には自分から依頼するように促し、主体的に生活する態度を育む。	1-① 2-①②	C	○あいさつや返事など社会生活の基本的なマナーについては適宜指導、支援を行い、生徒の意識を高めることができた。 ○下妻中との交流や花いっぱい活動など、外部の方と交流することでコミュニケーションなど、経験を広げることができた。道徳においても、課題について考えることを通して自己理解や自分の考えを深める機会を持つことができた。 ○「進路を考える週間」では人の役に立つ喜びを感じたり、働くことの大変さを知ったりすることができた。高等部の実習報告会への参加も、将来を考えるよい刺激になった。 ●マナーやルール、自立にむけた態度等、言葉かけを必要とすることが多く、定着していない。 ◇基本的なマナーやルール、主体的に生活する態度等、定着を図るために継続して支援していくことが必要である。
		イ	社会参加に向けた体験的な学習や交流活動、道徳に取り組み、自己理解を深めるとともに、考えや価値観を深められるようにする。	1-④ 2-①② 5-②	B	
		ウ	「進路を考える週間」で生徒の実態に応じた職業トレーニング体験を取り入れ、働くことについて考えられるようにする。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	1-③④ 2-②	B	
	(2)	ア	生徒一人一人の実態や特性に応じて、各教科の担当教員が教材の工夫や学習環境の整備を行うとともに、生徒の学習目標及び支援方法を明確にし、教科担当者間で連携し、共通理解を図る。	1-②③ 2-①②④ 3-③	C	
		イ	各教科の学習内容や定着度に応じた小テストの実施など、反復学習の機会を設定し学習内容の定着を図るとともに、ICTの適切な活用を進め、学習活動の充実を図る。	1-④ 2-①②④	B	
		ウ	それぞれの障害の特性に応じた支援を行うための自立活動の指導内容を意識するとともに、学習内容が定着できるよう、各教科の授業時数の確保に努め、教科指導の充実を図る。	2-②③ 4-②⑤	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
各教科の指導	Ⅱ (1)	日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	ア 言葉で伝える、カード、ICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことによって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	1-①②③ 2-④	B	○学習内容では、グループ会で話し合いを行い、個々の実態に合わせた目標や課題を設定して学習を進めることができた。 ●各教科の指導者間で、個々の生徒に応じた的確な支援方法の共有を行う時間が少なかった。 ◇グループ内の生徒増が見込まれるため、個々の実態に応じた学習環境の設定等、さらに再検討していく必要がある。	
		イ 各教科の指導者同士で連携を図ったり、学習の記録を生かしたりして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	2-①②	B			
	Ⅱ (2)	自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、主体的なコミュニケーション能力を身につける。	ア 生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-②③ 4-①③	B	○コミュニケーションに関しては、初めは受け身であったが、優しく声をかけたり、質問をしたりとお互いを意識した行動が見られるようになってきた。 ○体調管理に関しては、登校時や随時必要な時に確認し、グループ内で共有し、学習の進捗を調整することができた。 ●グループ内での生徒間でのコミュニケーションは増えてきたが、校外学習等などでのやりとりでは、声も小さくなり支援が必要であった。 ◇今後も自らコミュニケーションがとれるように、校内のみならず校外での学習場面の機会を確保していく。	
			イ グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、健康管理や目標の共有を図り、個々に応じた手立てを検討する。	2-①② 4-②	B		
	Ⅲ	(1)	生活のリズムを整えながら、健康の維持・増進を図る。	ア 検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や養護教諭、看護職員と情報を共有し、さらに学部会やグループ会等で連携を図りながら適切に対応する。	1-① 4-④	A	○生徒の体調を把握しながら、検温を行ったり、パルスオキシメーターを活用したりして健康観察を行い、安全に教育活動を行うことができた。また、保護者や看護職員と情報を共有することができた。 ○OPTやOT、STなどの外部専門家に個々の生徒の実態に応じた内容を相談し、相談した結果を自立活動や日常生活全般に生かすことができた。 ●生徒の主治医や担当セラピストと連携を行うことが十分ではなかった。 ◇必要に応じて、連絡ノートや医療相談、自立活動相談等
			イ 外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において個々の実態に合わせた身体機能の維持・増進に努める。	1-① 2-③ 4-④	B		
		(2)	人とかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。	ア 個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法、大型画面やタブレット端末などICTの活用について研修し、スキルアップを図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	2-① 2-② 2-④	B	
			イ 五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れ興味・関心の幅を広げるとともに、支援の方法や教材・教具の工夫をすることで、快・不快等の自発的な表出を促すようにする。	4-① 4-②	B		
			ウ 他者とかかわる場面の設定や学習内容、学習形態を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。	2-① 2-②	B		
			○タブレット端末や視線入力、大型モニター等を活用して生徒が興味関心をもてるような授業を行うことができた。 ○学習活動の中に、見たり、聞いたり、触ったりなどの五感を刺激する活動を多く設けることで、生徒の興味関心の幅を広げたり、表出が増えるような工夫をすることができた。 ○実態に応じたグループ学習をしたり、担外職員と連携したりして他者とかかわる機会を設定しつつ、個々に応じた教材・教具や環境設定を工夫して主体的な表出を引き出すとかかわりすることができた。 ●教材・教具の工夫やICTを活用した効果的な実践等を職員間で共有する機会が少なかった。 ◇各学年、グループで実践した内容を共有するシステムを構築したり、積極的に研修を行ったりして専門性の向上を図っていく必要がある。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
1年	(1)	ア	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習、作業学習、その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	1-②④	C	○面談を通して、来年度の実習についてや将来の進路先について確認し、卒業後を視野に入れた支援の在り方について検討し、学校生活に活かすことができた。 ●個々の課題を明確にしておく必要がある。 ◇進路先の生活を見越した学校生活がおくれるように、実態や課題等の引継ぎを行い、継続して取り組む必要がある。
		イ	生徒の実態に応じて、就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより、実態に合った進路想定を導けるように努める。	1-①②③	B	
	(2)	ア	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	2-①③	C	○かかりつけの医療機関からの情報を面談を通して得たり、外部専門家の活用を図りながら、個別の指導にあたることができた。 ○個の得意な動作を活かしてICTを活用し、生徒の達成感や充実感が味わえるよう手立てを工夫することができた。 ●学習の定着に時間を要するため、手立ての工夫や方法について、継続していく必要がある。 ◇学習記録を残し、来年度に引き継ぐ。
		イ	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、実態に応じたICTの適切な活用を図り、指導内容と方法の工夫や授業の改善に努める。また、生活上の課題についても目標達成カードを用いて教員間で共通理解し、手立ての工夫・充実を図る。	2-②④ 4-②	C	
	(3)	ア	教室、グループ室、廊下などの生活環境の整理整頓や清掃、消毒を毎日行い、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	5-①③	B	○輪番で掃除を担当し、毎日教室やトイレ等を清潔に保つことができた。また、学期末や学期始めに教室の清掃や環境を整えることができた。 ○必要に応じて、緊急時マニュアルの作成を行うことができた。 ○朝の健康観察を行い、様子がいつもと違う場合にはこまめに検温やバイタルチェックを行い、健康管理に努めることができた。 ○学校行事の中で、学年の友だちと関わる活動を設定し、自己選択、自己決定できる場面をつくることができた。 ●他者とかかわる活動が単発的になってしまった。 ◇他者とかかわる経験が積み重ねられるよう、定期的に活動を設定する。
		イ	保護者や関係諸機関との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、緊急時に備えたマニュアル作りと対応力の向上と個別課題の充実を努める。また、必要に応じてバイタルチェックを行い、健康管理の意識を高める。	5-④	B	
		ウ	他者とかかわる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	4-①② 5-①	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
2年	(1)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習や学校生活全般を通して、達成できるよう具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	1-②④	B	○日々の生活や学習活動、個別面談等で、生徒・保護者のニーズを確認したり、進路指導主事に報告・相談したりして、進路指導上の課題を明らかにすることができた。また、その課題を職員間で共有し、学習活動だけでなく日々の生活の中でも指導することができた。 ○進路指導主事と連携して情報提供を行ったり、モニタリングを通して相談支援員と情報共有をしたりして、具体的な進路想定に導くことができた。
		生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり、福祉施設等の情報提供を行ったりすることで、保護者や関係機関と連携を図り、実態に合った進路想定に導けるように努める。	1-②③	A		
	(2)	生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確に把握し、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	生徒・保護者のニーズを確認しながら個別的教育支援計画を作成し、職員間で情報共有をしながら個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	2-①②③ 4-②	B	○日々の生活や学習活動、個別面談等で、生徒・保護者のニーズを確認したり、外部専門家相談を活用したりしながら個別的教育支援計画を作成することができた。また、学年や授業担当の職員と、学習活動や支援について情報共有することで、教科横断的な学習指導を行うことができた。 ○生徒が主体的に学習に参加できるように、学習支援アプリやスイッチ教材を用いて、生徒一人一人の実態に応じて指導を行うことができた。 ●生徒の指導方針について、保護者の理解が得られないことがあった。 ◇個別面談や来校の際に指導に関する確認をし、相互理解を図る。
		一人一人が学習活動に主体的に参加できるように、ICT等の活用を通して、実態に応じた学習内容や指導方法を工夫し、授業の改善に努める。	2-②④	B		
	(3)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒が安心して学べる学級づくりに努める。	生徒の視点に配慮し、教室、グループ室、廊下などの整理整頓及び教材教具の点検・消毒を定期的に行い、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	1-① 5-③	B	○日々の清掃活動を生徒と一緒に行うことで、適切な環境整備を行うとともに、生徒の清潔意識を高めることができた。 ○登校時をはじめ、生徒の健康状態を適宜確認する事で、生徒が安全に学習に取り組むことができるよう努めることができた。また、生徒の健康状態で気になることがあった際は、養護教諭にみてもらったり、電話や連絡帳を通して保護者に伝えたりして、健康管理を行うことができた。 ●清掃の間隔が空いてしまう教室があった。 ◇使用している教室は、定期的に清掃を行う。
			保護者や養護教諭、看護職員との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。また、生徒の健康状態を把握するため、必要に応じてバイタルチェックをして健康管理の意識を高める。	4-② 5-①②	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
3年	(1)	自立と社会参加に向けて、一人一人の進路想定を踏まえた指導と支援の充実を図る。	ア 生徒、保護者のニーズを踏まえた個別の指導計画等を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。また、将来の実生活を想定した進路決定に向けて、実習の実施や進路相談を行うとともに、福祉施設等と情報共有を図る。	1-②④ 4-⑤	B	○個別面談や連絡帳等で、保護者の意見を確認しながら個別の指導計画を作成し、将来に向けて指導支援をすることができた。 ○進路決定に向けては、進路指導指導主事と連携しながら実習をしたり居住地における福祉相談会を実施したりすることができた。また、実習後の反省会では課題点等を明らかにし、事後学習や日常生活の指導支援に生かすことができた。 ●生徒の情報や指導内容について、進路担当職員とさらに円滑に共有できるとさらに良かった。 ◇ICT機器等のツールを効果的に活用していきたい。
		イ 生徒一人一人の目標達成に向けて、指導内容や支援について探究し、職員間での共通理解のもとキャリア教育の充実を図る。	1-② 2-①②	B		
	(2)	生徒の学習や生活上の課題を的確に把握し、学習内容、指導方法の工夫改善を図る。	ア 生徒、保護者のニーズを踏まえた学習内容や自立活動の指導方法を工夫し、授業の改善に努める。	2-①③③	B	○OPT、OT、STといった専門家の指導や助言を、学習や自立活動へ生かし、継続的に支援することができた。 ○主にタブレットやスイッチ機器を活用することができた。自立活動では、個に応じた機器の使用を進めたり、音楽の時間には、器楽の際に補助的な活用をすることができた。 ●自立活動の時間に休みがちな生徒へは、継続的に支援することが難しかった。 ◇より継続的に支援ができるように、計画していく。
			イ 生徒一人一人が学習活動に主体的に取り組むことができるよう、ICT機器の効果的な活用について探究し、実態に応じた学習内容や指導方法の工夫改善に努める。	2-②④ 4-②	B	
	(3)	健康や安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力や身体機能の維持・増進に努めるとともに、自己肯定感を育む。	ア 保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図り、生徒の実態や特性に応じた体力及び身体機能の維持・向上に努める。また、毎日の整理整頓、清掃等を行い、安全な教室環境の整備に努める。	4-①②③ ⑤ 5-③	B	○登校時の健康観察や保護者との情報交換を密に行うことで、生徒の身体の状態や日々の変化を把握することができた。また変化があった際には、保健担当職員をはじめ関係する職員と連携を図りながら、速やかな対応を図ることができた。 ○文化祭や修学旅行の準備や計画を通して、自分の気持ちを伝えたり相手の意見を聞いたりする場を設定し、学習を進めることができた。 ○使用した教室は、整理整頓や清掃、備品の点検を行うことで、生徒の安全や健康面に配慮することができた。
			イ 毎日の観察を丁寧に行うことで、生徒のささいな変化にも気付けるよう職員や保護者及び関係機関との連携を図る。また、生徒同士でかかわることができる学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	2-①② 5-①②	A	

高等部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	I	(1) 健康・安全に留意し、一人一人の主体的な活動を大切にしながら、充実した学校生活が送れるようにする。	ア 充実した学校生活を送れるよう自分の体調管理に留意するとともに、学校行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	1-①② 5-①②③ ④	B	○生徒が充実した学校生活を送れるよう体調管理に留意することができた。学校行事や学年活動において生徒が活躍できる場を設定し、主体的に活動できるよう心掛けることができた。 ●対外的な活動への参加 ◇近隣の県立高校と連携する。
		(2) 一人一人の進路適性を的確に把握し、対話を重視しながら個別の進路課題に応じた進路指導に努める。	ア 生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路支援部や関係機関との連携を図りながら、進学や就労に関する適切な情報提供を行う。また、生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が主体的に進路選択できるよう支援する。	2-①②③	B	○生徒や保護者の進路希望をよく聞いて、進路支援部や関係機関との連携を図りながら、進学や就労に関する適切な情報提供を行うことができた。また、生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が主体的に進路選択できるよう支援することができた。 ○教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた学習環境の充実に努めることができた。また、ICTを適切に活用し、基礎学力の向上や深い学びが実現できるように努めることができた。 ●進学コースの生徒に向けての支援の充実。 ◇教科書選定の見直しや、計画的な模擬試験の実施をしていきたい。
			イ 教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた学習環境の充実に努める。また、ICTを適切に活用し、基礎学力の向上や深い学びが実現できるように努める。	2-①②③	B	
		II	(1) 生徒一人一人が自立生活や社会参加するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。	ア 卒業後の自立と社会参加に向け、学習内容を精選し、実態に合った改善をしながら、実践的・体験的な学習活動を充実させる。	1-③	B
	イ 他の学年やグループと連携を図り、話し合いの場や自己選択・自己決定する場を設け、自分の気持ちを出せる機会を多く設定する。			4-③	B	
	ウ パソコンやタブレット端末などのICT機器を授業で活用し、情報収集・整理・分析・表現・発信を適切に行うことができる力を高められるようにする。			2-④	B	
	(2) 生徒のニーズ、卒業後の進路等を把握し、保護者や学部、学年及び関係機関と連携し、情報の共有を図る。		ア 進路指導主事との連携、外部講師、地域の人材などを積極的に活用し、卒業後の進路に応じた学習内容を授業へ取り入れる機会を設ける。	1-②	C	
			イ グループ内外の教員との情報交換を定期的に行うことで、実態を多面的に把握するとともに、一貫した指導を行うように努める。	2-① ②、③	B	
				○進路指導主事と連携を図り、実習内容を工夫したり、進路についての学習を進めたりすることができた。 ●外部講師や地域の人材の活用を効果的にできなかった。 ◇地域の卒業生に話を聞く機会を設けたり、社会福祉協議会と連携を図って学習内容に応じた人材を派遣してもらったりと、積極的に外とのつながりをもつようしていく。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	(1)	ア	生徒自らの主体性や意思の表出を図るため、人やものとかかわる時間を十分に設け、教材教具の工夫、ICTの活用を図る。	2-④	C	○自分の得意な方法で教材教具を操作したり、ICTを活用したりして興味の幅を広げることができた。 ○感染対策を講じながら、出席人数に応じて、他学年と一斉に授業を行う回数が増えた。生徒同士のかかわりが増えたり、お互いの存在を意識したりすることができた。 ○授業の変更においても、その都度周知して行っていたので、適切に支援を行うことができた。 ●他学年と一斉授業をする時には、教員同士が生徒の状態を把握する必要がある。 ◇授業前などに生徒の様子について共通理解を図る。
		イ	感染対策を取りながら、個々に合った授業を実践し、いろいろな友だちや教師との関わりを図る。	2-②	C	
		ウ	交流及び共同学習を計画的に行い、時間割等の変化に対しても、安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。	1-⑤	C	
	(2)	ア	マッサージやストレッチ、運動等を毎日継続して行い、身体機能の維持・向上に努める。	4-①	C	○自立活動マニュアルを使用しながら、身体の機能向上や維持に努めることができた。また、外部専門家との相談を通して、個々に合った目標や有効な手だてなどを考えることができた。 ○様々な音や感触、光、動きなど、五感に働きかけるような授業を行うことができた。 ●生徒の体調の体調の観察、確認を行いながら、その日の生徒の状態に合ったメニューを取り組む必要がある。 ◇その日の体調を確認し、行っていく。
		イ	感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	4-①	B	
	(3)	ア	毎日の健康観察や健康維持のための水分補給、検温を行い、個々に応じて血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	4-②	B	○登校時の連絡帳の確認や舎、保護者とのやりとり、また検温、SPO2の測定、生徒の観察など、様々な視点から健康状態を把握し、その日の体調に応じた支援を行うことができた。 ○緊急対応時は、教員が自分の役割を把握し、迅速に対応することができた。 ○生徒の様子がいつもと違った時は、検温、SPO2の測定、周りの教員と複数での確認などを行い、対応することができた。 ○輪番で学習室の清掃・消毒、使用した教材の消毒などを行うことができた。 ●色々な授業で教材教具を使用するので、教材教具の整理整頓が必要である。 ◇定期的に整理整頓をしていく。
		イ	緊急対応マニュアルの確認と対応を共有し、安全に毎日の生活を行う。	5-④	B	
		ウ	使用した教材の点検や消毒を行うとともに、定期的な教室やグループ室、教材室の整理整頓に努める。	5-③	B	